

子どもたちの「あふれる笑顔 きらめく瞳」をめざして



中学校区一貫教育校園 玉野市立玉小学校 学校だより第27号（令和4年12月9日）

玉小人権集会

「誰か」のこと じゃない。



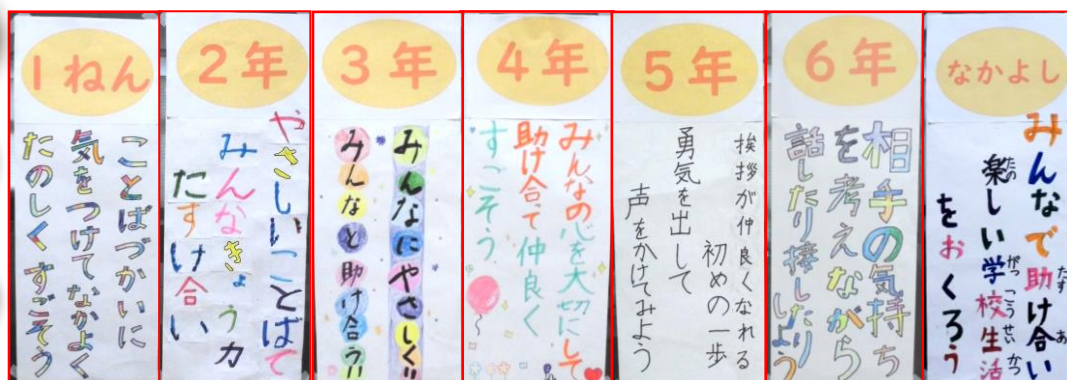
人権週間
12月4日～10日

国の人権週間のスローガン 法務省 HP より

12月5日（月）、玉小人権集会が各教室をオンラインでつないで行われました。これは人権週間（12月4日～10日）に合わせた取組の一環です。各クラスで「人権」について学習し、それぞれ意見を出し合い、【玉小宣言】を作りました。

運営委員さんや各クラスの代表、クラスでしっかり考えたみんな、ありがとう。おかげで良い集会になりました。

力作ぞろいの【玉小宣言】



【おさらい】人権集会での話



それぞれのクラスで考えた【玉小宣言】。これを決めるときには「こんな玉小にしたい」ということを一人一人、考えて決めたと思います。みんなの気持ちが入ったとてもよい宣言だと思います。発表する人も立派でした。

この人権集会までに、どのクラスでも【人権】についての授業があったと思います。先生はクラスの様子を見に行きますが、ちょうど【人権】についての授業をしていた学年のことを話します。

3年生では【人権】とは、生まれながらにもっているもの、幸せに生活するために必要なもの、誰にとっても大切にされなければならないものと勉強していました。5年生では自分や他の人の【人権】を守るために、人ごとではなく自分がどうするのかを考えていました。

【玉小宣言】は「みんなが気持ちよく学校生活を送ることができる」ためのものです。改めて【人権】について考え、自分を振り返り、【玉小宣言】を守るために、あなた自身がどうがんばるのかを考えましょう。

一人一人がそれを考えて行動できれば、玉小学校はもっと良い学校になると思います。みんなで頑張っていきましょう。



新聞で紹介されました

努力の大切さ知って

玉小で「志授業」 薬局経営者講師に
キャリア教育に取り
組む玉小で15日、企
業経営者や教育関係者
有志でつくるNPO法
人「岡山立志教育支援
プロジェクト」(岡山
市)による「志授業」
が行われた。6年生13
人が社会貢献の「志」に
基づいた将来設計や努
力の大切さを考えた。
同小出身で、薬局や
塾を経営する白重俊介
さん(64)が講師を務めた。白
重さんは小学校高学年
は、自分の人生を自分
で決め、10年、20年後を
見据えた針路を定める
「人生経営の社長」に就
く時期だと強調。幸せ
な人生を送ることし

「志授業」で、周りの人に感謝
されることを学んだ。
また、郷土の偉人と
して、岡山の発展に寄
与した実業家・大原孫
三郎の地域貢献活動
や、日本人女性初の五
輪メダリスト人見絹枝
の「努力の大切さ」を
学んだ。
「志授業」で、周りの人に感謝
されることを学んだ。
また、郷土の偉人と
して、岡山の発展に寄
与した実業家・大原孫
三郎の地域貢献活動
や、日本人女性初の五
輪メダリスト人見絹枝
の「努力の大切さ」を
学んだ。

玉小で15日、企業経営者や教育関係者有志でつくるNPO法人「岡山立志教育支援プロジェクト」(岡山市)による「志授業」が行われた。6年生13人が社会貢献の「志」に基づいた将来設計や努力の大切さを考えた。同小出身で、薬局や塾を経営する白重俊介さん(64)が講師を務めた。白重さんは小学校高学年は、自分の人生を自分で決め、10年、20年後を見据えた針路を定める「人生経営の社長」に就く時期だと強調。幸せな人生を送ることし

【立志】とは、【志を立てること】です。それは、自分が描く「なりたい自分【将来】」の実現に向けて、「具体的な目標と見通し」をもって【今】から努力することを自分自身に約束することです。

6年生のみんなは、この「【志授業】で自分の【将来】と【今】をつなげること…【将来】を描き、実現に向けて、【今】、何をがんばるのか」を考えました。

ただ、みんなが考えた6年生時点での【志】は将来、変わるかもしれません。しかし大事なことは、【志】を立て、その実現のために努力することです。みんなはこの志授業で【志】の立て方、具体的な目標や見通しの立て方を学習しました。そのやり方を知っていることで、みんなが将来、【志】が変わったとしても対応できることを期待しています。

山陽新聞社提供 (令和4年11月18日付 玉野圏版)

かわいい鋳物できた

レリーフの「砂型」作り
に取り組む児童

玉小で24日、機械設備専門商社
(の備前(岡山市)などによる出前
授業「工業生産とわたしたちのく
らし」が行われた。県教委が企業
と協働して学習プログラムを作成
する「企業発一みらプロ」事業の
一環、児童たちは機械産業を支え
る鋳造技術と学び、鋳物作りにも
取り組んだ。
備前の取引先で鋳造設備メカ
ーの新東工業(名古屋)の岡川
俊浩さんを講師に5年生13人が社
会科の授業として取り組んだ。岡
川さんは、奈良の大仏から電子機
器部品まで、身のまわりにも多く
の鋳物があることを紹介。「人々の
生活の質向上に欠かせないもの」
と説明した。
児童は「こまもん」や愛知県豊川
市の「こまもん」や「いんげん
をかたった」の鋳物のレリーフ作り
にも挑戦した。同社の社員から手ほど
きを受けながら、レリーフの形が彫
られた木の枠に砂を詰め、押し固め
て「砂型」を作製。新東工業の社員
が児童の目の前で溶かした金属を型
に流し込み、冷やしてレリーフを完
成させた。
近藤維雄さん(口)は「水道の蛇口
も鋳物で出来ていてびっくりした。か
わいいレリーフを作ることができて
楽しかった」と話していた。(逸見崇樹)

玉小5年 出前授業で技術学ぶ

児童が作った鋳物のレリーフ

様々な人が関わって実現したプロジェクトでしたが、「いもの」の学習や「いものづくり」を体験することで、「いもの」について知ることの他に、みんなには以下のようなことを期待しています。

それは例えば、砂をつめる時に、昔、砂遊びで体験したことを活かしたり、身の回りの「いもの製品」を探すことで、習ったことと生活に関連付けたり、社会の授業で習った「プレス」と「いもの」を比べて、共通点や違う点を見つけたり…それらをする中で、知っていること(知識)同士をつなぎ合わせることが出来ます。それをいろいろな機会にすることで、新しい考えがひらめいたり、自分の考えを整理できたり、まとめたりできる力がつきます。それを期待しています。

山陽新聞社提供 (令和4年11月26日付 玉野圏版)

先生達も勉強！

11月30日(水)、玉中学校区小中一貫教育の取組の一つとして、本校で6年生社会【国力の充実をめざす日本と国際社会】の公開授業を行いました。本校の研究テーマ【関わり合い】に迫るために、6年生のみんなはクロムブックを使って資料から読み取り、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聴いたりして、自分の考えと比較したり、新たな考えに気づいたりよく頑張っていました。

授業後の研究協議では玉中、玉原小の先生方から「児童たちはクロムブックの扱いに慣れていますね」「関わり合いをもつためのしかけがありましたね」「資料を示して自分の考えを言っていましたね」などの感想を多くいただきました。ありがとうございました。研究協議後、校内研修を行い、成果と課題、今後の対策を先生達で共有しました。



研究協議の様子(3校学力向上部会)